

平成二十四年度 関西福祉大学・大学院 卒業式・学位記授
与式 学長式辞

赤穂の地におきましても、次第に、暖かくなり、木々のつぼみが、日一日と膨らみ、そこかしこに春の息吹が感じられるようになりました。

このよき日に、平成二十四年度、関西福祉大学・大学院の卒業式・学位記授与式を挙行するに当たり、学長として一言ご挨拶を申し上げます。

本日の卒業式・学位記授与式には、公務ご多用のところ、赤穂市長 豆田正明（まめだ まさあき）様、金光教務総長 岡成敏正（おかなり としまさ）様をはじめ、ご来賓各位のご臨席をいただき、保護者の皆様方のご列席のもと、

（一） 大学院社会福祉学研究科 第三期生・三名、

（二） 社会福祉学部 第十三期生・一五八名、

（三） 看護学部 第四期生・九三名、

あわせて、二五四名が、ご卒業を迎えられたことに対して、本学の教職員を代表して、心からのお祝いを申し上げます。

誠に、ご卒業おめでとугоざいます。

君たちの新たなスタートにあたり、一言申し述べさせていただきます。

本学の建学の精神、「人間平等」「個性尊重」「和と感謝」については、繰り返し聞いてきたと思いますが、この精神は、この四月から、福祉・看護の専門職として活躍するにあたっての行動指針となるものです。

その視点に立って、建学の精神について今一度、説明し

ておきたいと思えます。

まず、第一に、「人間平等」ですが、これは、「人はみな等しく神の氏子である」という金光教の教義を踏まえたものです。この精神は、福祉・看護の専門職として、最も基本とすべきもので、対象となる人々をその属性によって差別するなどのことなどは、絶対にあってはならないということ です。

第二に、「個性尊重」ですが、これは、人間には、それぞれ違いはあるが、優劣をつけるべきものではなく、それぞれが、素晴らしい存在であることを意味するものです。

第三に、「和と感謝」ですが、君たちは、これからどのような立場であれ、一人では、何もできないと心得て欲しいと思います。常に、上司や同僚とともに、さらには、地域の人たちと力を合わせなければ、何事も達成できないものです。

そこにおいては、和が最も大切であり、そして、常に感謝することが大切です。

和する気持ちが生まれるところに感謝の気持ちが生まれ、感謝の気持ちが生まれるところに和する心も生まれてくることを忘れてはなりません。

いかなる時も、この建学の精神をここに深く留めおき、これを実践して欲しいと思えます。

君たちは、これから歩む新しい道は、それがどの様なものであれ、決して容易なものではないと知っておく必要があります。それぞれどこか、様々な困難に満ち満ちていることもあります。

そのような中であって、誰しも、その様な困難を克服し

て、「成功した人間になりたい」という欲求を持っていると思います。

しかし、成功するためには、熾烈な競争もあります。そこは、弱肉強食の世界といっても過言ではありません。

成功した人間になるという選択肢も、時として大切なことともありましょう。しかし、専門職としては、これとは少し異なる視点を持って欲しいと思います。

相対性理論で知られるアルベルト・アインシュタインは、「成功した人間になろうとするな。むしろ、価値のある人間になろうとせよ」と言っています。

誰もが、成功した人間になることが出来るとは限りません。これに対して、「価値のある人間になる」ことは、誰にも出来ることです。そのような存在となつて得られるものは、他者からの感謝と信頼です。

福祉・看護の専門職たる君たちは、アインシュタインの言う「価値ある人間」を目指し、サービスの対象となる人々から、沢山の感謝と厚い信頼を寄せられる人間となつて欲しいと願うものです。

今、我が国は、大変に困難な時代に突入しています。様々な指標がそのことを示していますが、中でも問題にしなればならないのは、自ら命を絶つ人が、この数年、年間三万人を超えていることです。実際には、その一・五倍から一・八倍とも言われています。その背後には、さらに多くの人たちが救済を求めているはずで

今、最も大切なのは、そのような人々の生き方を尊重し、寄り添い、支え続けることではないでしょうか。そして、

すべての人たちが、「幸せを実感できる福祉社会」を一日も早く実現することが大切です。

福祉社会の創造は、「価値ある人間」を目指す君たちに委ねられています。

優しさと思いやりを忘れず、本学卒業生としての誇りと勇気を持って、すべての人々が幸せを実感できる福祉社会を創造するために、果敢に行動して欲しいと、強く願うものです。

そのことを、こころから、祈念して、送別の辞とさせていただきます。

平成二十五年三月二十三日

関西福祉大学学長 安井秀作